

2025 年度 学校経営方針

○ 文部科学省「授業時数特例校」

シブヤ未来科（総合的な学習の時間）の展開

地域や関連団体・企業等と連携した探究学習から個別の探究に

○ 部活動の地域移行を推進するためのモデル校

2025 年度も、運動部活動を中心に渋谷区スポーツ協会（渋谷ユナイテッド）との連携によりスポーツ・文化活動の地域密着型コミュニティの創出を目指す。

I 教育目標

確かな未来へ

Launching Authentic Futures

「Society 5.0」の到来に伴い創出される新たなサービスやビジネスによって、我々の生活は劇的に便利で快適なものになってきています。一方で、人類がこれまで経験したことのない大きな変革期を迎えるともいわれる中で「AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等」の高度化した先端技術を使いこなし、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材が求められています。このような激動の時代をたくましく歩んでいくための「生きる力」（スキル＝資質・能力）を育むため、次の目標を設定します。

○ Communication（対話）

多様な他者との主体的な「コミュニケーション」（対話）により

自分の良さ（自分らしさ）や可能性を見出すとともに

あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる

○ Collaboration（協調）

多様な他者との「コラボレーション」（協調）により

最適解・納得解を導き出し

様々な社会的変化を乗り越えることができる

○ Innovation（革新）

新しい価値（コト・モノ）を創出することで

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる

Communication（対話）がCollaboration（協調）を生み

Collaboration（協調）がInnovation（革新）へとつながることを体得する。



2 コンセプト2025

「対話を重視する」 ～対話により「ちがいをちからに変える」～
めざすのは「ちがいを ちからに 変える学校」
あなたと誰かの「違い」はすべて
この学校のちからになっていきます
あなたが存在しなければ
つくれない未来がある
代々木中学校のすべてのちがいをちからに変えて
未来社会を見据えた「未来の学び」を創造し「未来の学校」を構築する

3 マルチ・コンセプト

Don't think, just do!/YOYOGI やっちゃえ 代々木

確かな未来に向けて「学びのイノベーション」が求められています。これまでやってきた教育活動を踏まえ、「未来の学び」を試行錯誤して構築していく必要があるといわれている中で「新たな課題」が数多く出現することが予想されます。これらの課題を乗り越えるためには、「実行力」が重要です。子供たちのために「良いこと」はとことんやる。そして、最後までやり切る「突破力」も必要です。

この「実行力・突破力」を引き出すために Don't think, just do!/YOYOGI やっちゃえ 代々木 を合言葉に新しい教育活動を展開していきます。

4 具体的な方策

○ 協調型問題解決能力（Collaborative problem solving）の育成

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をベースにして
「習得」―「活用」―「探究」の往還から協調型問題解決能力
（Collaborative problem solving）の育成を図ります。

① 授業を変える（各教科）

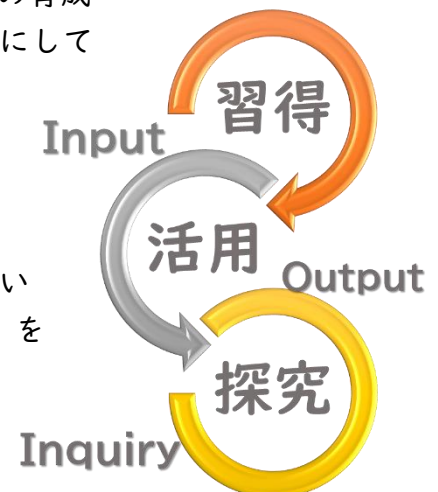
知識構成型ジグソー法をベースにドラスティックな
授業デザインの転換を図ります。主体的・対話的で深い
学びの視点から授業改善により、「実社会」と「学び」を
つないでいきます

② Project Based Learning

地域団体・民間企業等との協創により学年・教科を
越えた PBL（Project Based Learning）を展開して Authentic な学びを構築、
「社会課題の解決」と「学び」の融合を図ります。

③ Inquiry Based Learning × S T E A M

社会に広がるテクノロジー等を最大限活用して、実際の社会課題にアプローチして学びを深めていきます。



5 取組の重点

- すべての教育活動において「対話」を重視します。

「対話」を通じて多様な他者と関わりあうことで「ともに見る、ともに感じる、ともに考える」という共感をともなった「理解」を生み、その先の「信頼」へとつなげていくことを重点的に取り組んでいきます。

- 教員の授業力・経営参画力を高めていきます。

教職員の「協調型問題解決能力」を高めることで、質の高い授業力・経営参画力の育成を図ります。

- 学習者主体の教育活動を展開します。

単に「自主的」に教育活動に参加するだけでなく、学習者自身が当事者意識をもち、意志決定、行動選択する環境を構築することで、学習者主体の教育活動を展開していきます。

- ◆ 「学校の常識」を「社会の常識」にしていきます

- ◆ 保護者・地域との協働体制を構築します

保護者、地域とともに「とことん」生徒に関わる教職員

- ◆ 生徒を「信じ 待ち 許す」ことのできる体制をつくります

- ◆ 生徒の夢を育む「だったらこうしてみたら」型の指導を進めます

- ◆ 日本一「面倒見の良い」学校を目指します

- ◆ 「生活指導」から「生徒支援」への転換

- 心の教育の充実を図ります

すべての教育活動を通じた道徳教育の充実を図るとともに、道徳科においては「考える道徳」「議論する道徳」の実践を進めていきます。

- 個々の学力・体力にあった指導の充実を図ります

ICT（先端技術・テクノロジー）の効果的活用により、すべての生徒の「ワクワク感」を高め、学習習慣、運動習慣の定着を図ります。「学び方・運動の仕方」を身に付けることで「基礎学力、基礎体力」を確実に定着する力を育成します。

また、自分の特性を理解した「自分なりの」学び方・運動の仕方を身に付けることで「自信と誇り」を育成していきます。（学習の個性化）さらに、学習につまずきのある子どもに対する具体的な支援策を探っていきます。（指導の個別化）

- 特別活動の充実を図ります。（生徒が主体の学校への転換）

学校行事や部活動等の目的・手段の明確化、創意工夫ある取組により、生徒が主体的に取り組む集団的な活動の充実を図ることによって、すべての生徒の「自己有用感」を育成していきます。特に、異学年集団の活動を通して自分の立場や役割を知り、思いやりの心をもって、人と関わる等の「ピアサポート(お世話活動)」を通して、リーダーの育成と協力する心の醸成を図り「自己有用感」を育成します。

- 特別支援教育・学校不適合指導の充実を図ります。

さまざまな理由で学校に適合しにくい生徒を徹底的に支援します。すべての生徒が将来に向けて夢や希望を抱き、安心して生活できるようにしていきます。

- ◆ 学校不適合への粘り強い対応

- ◆ 特別支援教室の効果的活用

- 教育環境の整美を図ります

「学び」の仕掛け(キッカケ)のある学習環境を構築していきます。



代々木の前に道はなし、代々木の後ろに道はできる！
時代を超えて変わらない「価値」のあるものを確実に引き継ぎ
時代の変化とともに変えていく必要のあるものは躊躇なく変革する

未来社会を見据えた「未来の学び」の創造を目指し
「未来の学校」を構築していきます。

渋谷区立代々木中学校長 駒崎 彰 一

